



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

運動会のご協力、ありがとうございました

校長 石井卓之

運動会のアンケートのご提出、ありがとうございました。先日の職員会議で、保護者アンケートと教員の反省を体育科がまとめて、次年度の方向性についての提案がありました。

私は職員会議に先立ち、体育科からアンケートのまとめを受け取りました。まず感じたことは、保護者の皆様が教職員、子どもたちの取り組みを温かい目で見守り、評価していただいたことです。特に、下学年の表現や低学年の玉入れなどのときに、上学年が座席や待機場所で一緒に踊っているのを見て、「帝小らしい一体感があり、ほほえましかった」と多数の方が書いてくださいました。また、教師の指示待ちではなく、自分の頭で考えて動いている係活動が素晴らしかったと書いていただいたこと、とてもうれしかったです。

長らく懸案だった放送機器は、帝京大学中高の機材を借り受け、活用することで例年に比べて質の良い音で運動会を盛り上げることができました。一部の保護者からは音が割れるとのご指摘がありましたが、コンサート会場並みの質の担保は難しい状況があり、学校教育の場としてはご容赦いただきたいと思えます。

運動会の午前中実施についてもご理解いただき、ありがとうございました。熱中症対策の関係から次年度以降もこのスタイルを進めていきます。暑さ対応として急速開放した体育館での冷房とライブ配信は高い評価をいただきました。次年度以降は、常設できるように準備を進めていきます。

大きな反省点は、当日の天気予報を見てから対応したテントの設営です。大学から借りた数が十分ではなく一部の係が入れない状況がありました。次年度は必要数を確実に確保して対応していきます。また、テント設営の場所と児童席との位置関係が合っておらず日影が児童の頭上からずれていました。全時間は無理でも、一定時間は日影が確保できるように工夫していきます。

短距離走のゴール付近では大きなトラブルはないと感じておりましたが、保護者アンケートからはもう少し譲り合いが必要との指摘が複数ありました。この点は保護者のご協力をいただくことが必要だと感じています。また、日傘をさす方が前方にいたために見えにくいとのご指摘がありました。次年度は、日傘は後方での使用をお願いしていきます。

谷川俊太郎さんの死去

11月13日(水)、谷川俊太郎さんの死去が各種ニュースや新聞報道で伝えられました。谷川さんの作品は、国語の教科書にも載っており、保護者の皆様も小学生時代に触れたことがあるのではないのでしょうか。低学年では「ことばあそびうた」、6年生では「生きる」が有名です。「スイミー」の翻訳も谷川さんです。また、研究会の講師に招かれて体育館の校歌をふと見上げると「作詞：谷川俊太郎」と書かれています。

ゆね	い	い	い	い	ま	よ	い	い	い	
め	て	つ	る	な	る	た	る	な	な	
み	い	ば	い	い	か	き	な	い	い	い
て	る	い	る	か	い	て	ら	い	か	い
い	い	い	い	い	な	み	い	な	い	る
る	る	る	る	る	い	る	る	い	る	か
か	か	か	か	か	か	か	か	い	か	
								る	か	
								か		

職員室の窓

苔にはまっています。神社や自然豊かな場所では、苔が風情を醸し出し、頭の中で久石譲さんのコンサートが始まります。ここ帝小にもさまざまな苔が生息しています。探してみると由緒ある神社にも劣らないほど、繁茂していました。クラスの子どもと休み時間に集めて、苔テラリウムを作成しました。コケちゃん、可愛いです。



《教諭 嵐 右京》



《教諭 小林 翔太》

「デジタル・シティズンシップ」という言葉をご存知でしょうか。これは「デジタル社会で生きる人々の行動規範」ともいえる考え方です。デジタルに囲まれた社会で生きていくには、誰かに使い方をコントロールされるのではなく、自ら考え、責任をもって使う「自律」が大切です。その経験を積み重ねることで、子どもたちは課題に直面したときにも落ち着いて解決策を考え、実行できるようになります。私たちは、子どもたちが「テクノロジーのよき使い手」として日々の生活や学びに活用できるようにサポートしていきたいと考えています。